

# 地域

# 子どもたちを

# 育もう!



# kids

## 上級生も下級生もみんな友だち

### 一田村市放課後子ども教室「めだかの学校」(福島県) 一

福島県田村市では、2010

年度は全18小学校中13校に、放

課後子ども教室「めだかの学

校」を開設している(他は統合

予定校及び学童クラブがある)。

そして、子どもたち同士がふれ

あつて社会性を身につけるように工夫して

いるという。どのように社会性を育ててい

るのが取材した。

(取材文/有馬 正史)

「めだかの学校」の開設に当初から関わった田村

市教育委員会の主任主査兼社会教育主事の吉田泰

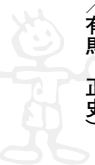
久さんに話を伺い、滝根地区の菅谷小学校、広瀬

小学校、滝根小学校の「めだかの学校」を案内し

てもらった。開設については、「少子化、核家族

化の影響は田舎ほど深刻で、どの家庭も子どもが

少なく、近所が広いため、子ども同士遊ぶことは



少なく、さらに、狭い家族の関係の中でしか育つ

ていないため、社会性が育たなくなっています。

ですから、安全・安心で子ども同士が自由にふれ

あえる場をつくりたいと、プログラムを一切持た

ない「めだかの学校」を作りました」と言う。

体制は、「各校コーディネーター1人、指導員

3〜4人。指導員の登録者は8〜10人。コーディネ

ーター、指導員は、子育て中のお母さんや企業

OBなどです。子育て中の

お母さんが幼い子どもを連

れて参加するのは大歓迎で、

子どもたちと一緒に遊んで

もらうのが狙いです」。そ

れを証明するように広瀬小

では子どもたちが幼い子ど

もと遊んでいた。また、菅

谷小では卒業した中学生4





中学生に遊んでもらって  
子どもたちは喜ぶ



人が子どもたちと遊んでいた。

運営については、「大人は最初、何かしてあげようと遊びを企画しますが、すぐに行き詰まりません。子どもたちも一つにまとまらない。枠にはめられた学校と違い、放課後の子どもたちははじけるのです。子どもたちは、指導者が何をできるのを見抜く力を持っていて、選ばれないと一緒に遊べません。この事業は、地域の人だからできると

思っています」と話す。各校のコーディネーターは、口々に、「ケガをしないように見守っているだけです」と言い、子どもと一緒に遊んでいた。

子どもの参加は、「学校の児童全員の参加が基本です。子どもたちは、1〜2人だとTVゲームをしますが、5〜6人集まると体を使って遊び出し、数が多いほどそうなります。そして、自分たちで考え、いろいろなグループをつくります。全員参加にすると、1人のわがままは通らない。みんなとの調和が必要になりま

す。ですから、子ども同士が工夫した集団遊びが中心になります」と言う。

09年度実施の全12校の児童、保護者のアンケート結果では、子どもたちは「めだかの学校」は楽しいと答え、キックベースボール、ドッジボール、バレーボール、鬼ごっこ、かくれんぼ、など集団遊びへの参加が多い。自分が変わったと思うことの上位2つは、学校に行くのが楽しくなった、学年の違う友だちが増えた、であった。また、保護者が感じた自分の子どもの変化でも、異年齢の友だちと遊ぶようになったこと、が最も多かった。どちらも異年齢交流に顕著な変化を感じている。

夏は午後4時30分、冬は午後4時には全校一斉の集団下校となる。高学年が低学年を引率してグループで帰る。滝根小では仲良く集団下校する児童たちの姿を見た。これも異年齢交流の後押しをしているようだ。子どもには自分でやれる力がある。大人はそれを信じて任せる。誰が生徒でも先生でもない「めだかの学校」を、皆さんの地域でもいかがだろうか。